

ミニレター  
あぜみち通信

\* \* \* \* \*

平成20年1月1日

85号

編集・発行：愛知県農業会議

### 平成20年度農林水産予算（政府案）が決定しました

平成20年度政府予算案が12月24日の閣議で決定し、農林水産予算については、対前年度比97.3%の2兆6,207億円となりました。

農業委員会系統組織の基礎的な予算については、農業委員会交付金、農業会議会議員手当等負担金及び農業委員会費補助金として措置されていますが、それ以外の主な事業関係予算は、「強い農業づくり交付金」の内数としてのものと、「担い手育成総合支援協議会」を事業実施主体とする国直轄採択事業の中に盛り込まれています。

また、面的集積組織等が活用する農地情報図（GIS）を整備するため、農業委員会の農地基本台帳と水土里情報センターの地図情報を結合する予算も計上されており、さらに、耕作放棄地解消緊急対策の一環として、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金の遊休農地解消を支援する事業のなかで、農業委員会等が事業実施主体として位置づけられています。

### 平成20年度農業委員会関係の主な予算の内容

1. 農業委員会交付金については、47億7,618万円で、19年度と同額。
2. 都道府県農業会議会議員手当等負担金については、対前年度比99.5%。
3. 農業委員会費補助金（農地調整事務処理事業費、標準小作料改訂事業費）については、対前年度比80.6%、6,694万円。
4. 強い農業づくり交付金に盛り込まれている農業会議・農業委員会関係の予算としては19年度と同様、集落農地利用調整、特定法人等農地利用調整緊急支援、優良農地確保支援対策等（うち遊休農地解消普及活動）、連携強化推進体制整備が予算措置されている。
  - (1) 集落農地利用調整（交付率：定額、1農業委員会：92万6千円）
  - (2) 特定法人等農地利用調整緊急支援（定額、1農業委員会：70万8千円）
  - (3) 優良農地確保支援対策等（うち遊休農地解消普及活動）  
（交付率：定額、1農業委員会：83万円）
  - (4) 連携強化推進体制整備（交付率：1/2、1農業委員会：6万6千円）
5. 国の直轄採択事業：担い手育成・確保活動（農地の利用調整活動）は、「担い手アクションサポート事業」のうち、担い手育成総合支援協議会（農業会議・農業委員会）が担い手の育成・確保及び担い手の経営改善の促進に向けた農地の利用調整活動

を実施するための予算が措置されている。

- (1) 認定農業者農地等利用調整促進支援（定額、1 農業委員会：40万2千円）
- (2) 農地等利用調整等効率化支援（定額、1 農業委員会：87万6千円）
- (3) 農地等利用適正化推進支援（補助率：定額、1 農業委員会：69万7千円）

## 6. 農地対策関係予算

### (1) 農地情報のデータベース化に対する支援

【面的集積農地情報整備促進事業】（補助率：定額、8億6,780万円）

農業委員会等の農地情報と水土里情報センターから提供される地図情報との結合等を支援する。

【農地情報提供システム構築事業】（補助率：定額、5,000万円）

全国どこからでもアクセスできる農地の貸出等に係る情報システムの構築を支援する。事業実施主体は公募。

### (2) 担い手農地集積高度化促進事業（食料安定供給特別会計）

#### 【市町村等事業】

##### 面的集積強化促進事業

認定農業者、集落営農組織等の担い手（受け手）及び当該担い手に農地の面的集積を進めることに同意する者（出し手）等を構成員とする農用地利用改善団体等が調整の上、定めた面的集積プランに従って、面的集積を実現した実績に応じて面的集積促進費を交付する。

##### 農地マーケット事業

耕作放棄地の増加及び担い手の不足が深刻である地域を中心に、インターネットにより農地の売買等の希望に関する情報を公開し、地域内外から広範に農地の出し手・受け手を募集できる仕組みを構築する。

##### 利用集積農地整備事業

利用集積を図った農地等に対して、効率的な農地利用を促進するため、整地、客土、暗きょ整備等の簡易な基盤整備を実施する。

#### 【都道府県団体事業】（補助率：定額、1 農業会議：96万円）

担い手への農地の利用集積を広域的・集団的に促進するため、市町村農業委員会が ~ の事業実施に際し、必要な指導等を行う。

### (3) 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金（うち遊休農地解消に対するきめ細やかな支援）（交付率：1/2）

### (4) 水土保全強化対策事業（土地改良換地等促進事業）

## 7. 担い手・経営対策関係予算

### (1) 品目横断的経営安定対策（拡充）概算額：2,087億円（1,395億円）

20年度から面積規模要件について「市町村特認制度」を新設

### (2) 担い手経営革新促進事業（拡充）概算額：171億円（71億円）

### (3) 集落営農総合支援事業（新規、9億5,000万円）

実施主体：地域・都道府県担い手育成総合支援協議会

集落営農組織化支援事業（組織の立ち上げまでの支援）

集落営農フォローアップ事業（新規、20～24年度）

基礎的な体制整備の支援（営農計画の策定、会計帳簿の記帳等を相談員が助言）、専門家によるコンサルティング（相談、改善策の提示等）

集落営農経営安定支援事業（新規、20～22年度）

農業経営の多角化や複合化による収益向上にチャレンジする集落営農組織に対して、試験的な事業実施や集落リーダー等の活動を支援

- (4) 担い手アクションサポート事業（概算額：22.5億円（35億円）  
ワンストップ支援窓口の設置、サポート会議及びサポートチームの設置・運営、担い手の育成・確保のための啓発・支援及び経営支援等
- (5) 担い手経営展開支援リース事業（概算額：7億円）機械・施設のリース料の一部を助成
- (6) 地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業（64.8億円（35.2億円）  
「プロジェクト融資集積主体型補助」を54億円（29.2億円）に拡充。
- (7) 農地面的集積支援モデル事業（新規、全国10地区）概算額：3.7億円
- (8) 農地集積条件整備モデル事業（新規、全国10地区）概算額：4千万円）
- (9) 収入減少影響緩和対策積立金管理業務委託事業（継続・拡充）  
面積確定や補てん支払い積立金管理のための経費
- (10) 農業者年金基金関係業務委託費  
現在検討されている独立行政法人の見直し結果を受けて策定される次期中期目標の方針に基づいて、交付委託額を決定し、配分される予定。  
農業者年金基金に係る国費の内示額は、農業者年金給付費等負担金などで総額1,235億600万円（対前年度予算比18.3%減）。

8. 農業人材育成関係予算（新規就農対策・外国人研修生関係予算）

「普及・女性課」が「人材育成課」に改組されることに伴い、新規就農関係事業に外国人研修生関係事業が加わり、多様な人材確保対策を推進していく。

- (1) 全国新規就農相談センター関連 「農業再チャレンジ支援事業」として前年度比8.9%減の1億9,210万3千円となった。
- (2) 都道府県新規就農相談センター関連 19年度と同様、都道府県担い手育成総合支援協議会を窓口とする国直轄採択事業「担い手アクションサポート事業」（補助金）のうち「新たな人材の育成・確保活動」（メニュー方式）が措置されている。
- (3) 外国人研修生関係予算 8,004万4千円が新規に措置された。

詳細は、各市町村農業委員会へお届けしてあります。予算を活用して、遊休農地の解消や担い手の育成確保にお役立て下さい。

「農地政策の展開方向」に対する意見集約を実施しています

農林水産省は、11月6日「農地政策の展開方向」を公表しました。内容については、前号で紹介したとおりですが、現場の実態を踏まえた制度改正につなげるため、市町村農業委員会の意見を集約しています。

「展開方向」の原本は、農林水産省のホームページ（<http://www.maff.go.jp/j/press/keiei/koukai/pdf/071106-01.pdf>）を、また、最近の農地制度・政策等の見直しをめぐる動きについては、愛知県農業会議のホームページのあぜみち通信・平成19年度・「農地政策見直しの動き」（<http://www.nougyoukaigi.or.jp/azepdf/071108.pdf>）をご覧ください。

関係者での活発な討議を踏まえて、積極的にご意見をお寄せ下さい。

### **稲作経営者会議会員と東海農政局との意見交換会を開催**

稲作経営者会議は、12月12日中区のKKRホテル名古屋において、理事会及び監事会を開催するとともに、会員と東海農政局長始め幹部との懇談会及び情報交換会を開催しました。

懇談会では東海農政局の岩元明久局長からの、本年の作況から農政改革3対策の緊急見直しに至る最近の農業情勢について説明及び飼料用イネの開発研究などについて紹介、同局生産経営流通部畜産課の蝦名広志課長補佐から稲発酵粗飼料（ホール・クロップ・サイレージ：WCS）、水田放牧及び飼料米の生産・利用拡大に向けた取組事例や支援策について説明を受けた後、活発な質疑応答がありました。

質疑応答では、既に飼料用に稲藁などを供給している松井理事から、現場を踏まえた意見や課題の報告があり、また、会員から「新たな取り組みを始める度に機械装備が必要になり経営を圧迫する」との訴え、「飼料用の稲に取り組むために、畜産農家のナマの声を聴きたい」との要望などがありました。

引き続いての意見交換会では、畜産専門の栗本まさ子東海農政局次長も加わり、懇談会でも質問に答えられた食糧部長、生産経営流通部長も含めて、和気藹々のうちにも熱の籠もった情報交換が行われ、視察の約束ができた方も有り、農政局幹部と稲作経営者との溝が少し埋まったようです。

今後も、農政担当者や県内畜産農家などとの情報交換会を持って行きたいと考えています。ご意見をお寄せ下さい。

### **愛知県経営構造対策推進協議会コンダクター会議を開催**

愛知県経営構造対策推進協議会は、年度当初の計画に従い、県内各地の農業構造改善事業、経営構造対策事業を実施した26地区における事業目標や施設利用状況の調査を実施し、12月13日白壁庁舎においてコンダクター会議を開催し、長久手始め7地区の改善意見を取りまとめました。

1月以降、残り地区についても取りまとめが行われ、3月には事業主体及び関係機関、団体に通知されますので、今後の事業の推進や指導に供してください。

### **耕作放棄地・不在村地主対策検討会を開催**

愛知県農業会議は、12月18日、新城市の新城市文化会館において、中山間地域を抱える岡崎市、豊田市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村の6農業委員会の委員及び事務局職員並びに県関係者等32名の出席を得て、初めての、耕作放棄地・不在村地主対策等検討会を開催しました。

新城設楽支部の野澤支部長（新城市農業委員会会長）から「平坦地と違ってほ場の条件が悪く鳥獣害の被害が深刻であり、中山間地域の農業は大変な状況である。皆さんでよく話し合いよりよい方策を検討していきたい。」との挨拶に続いて、耕作放棄地の愛知県内の現状や農業委員会の取り組み事例の紹介、今年1月に農業委員会系統組織で実施された不在村農地所有実態に関する調査結果の内、愛知県内の状況についての分析結果等が説明されました。

これを受けて各農業委員会での取り組みの報告を行いました。

岡崎市では、毎月、2回程度の計画で市内を農地パトロールしており、特にJA関係者を巻き込んで行っています。

豊田市では、鳥獣害対策協議会に農業委員としても積極的に参画しています。  
 設楽町では、耕作放棄地対策に特定法人貸付事業を活用して解消しました。  
 豊根村では、耕作放棄地対策に所要労力の少ないソバとブルーベリーの作付を推進しました。  
 今後は、3月頃を目処に第2回目の検討会を開催する予定です。

### 愛知県水田農業構造改革推進会議が開催されました

平成20年産米の需給調整などの進め方を検討するため、12月18日に愛知県水田農業構造改革推進会議が開催されました。

19年産米の需給調整の取組状況については、145,530ト(28,678畝相当)を農協などを通じ114,454人に配分。55,395人(48.4%)が参加し、90,822ト(17,752畝)の目標に対し主食用イネの栽培面積は15,866畝で1,886畝の「超過達成」と言うことであるが、県内全体では過剰作付となっていることが報告されました。

20年の需給調整及び水田農業構造改革対策については、農業者・団体が主体的な需給調整の基本は変えないが、「需要量に関する情報」は、生産量の他に面積換算値も提示することとし、目標達成についても(手上げ方式の)生産調整参加者に限定しての判定を見直し、県及び地域別に判定されるとともに、目標未達の県・地域には水田農業構造改革交付金で差を付けるなどの措置がとられることとなった。

20年産米の市町村別需要量情報については、国からは19年産米対比0.8%減の、144,370トが提示され、19年産米の対策と同じ方針で、市町村別に配分されることとなりました。

全国的に見ると、19年産米については需要見通し835万トに対し40万トの生産過剰で、これが米価低落の原因とも言われております。

### 常任会議員会議(12月)の審議状況

農地法に係る知事諮問案件等を審議するための常任会議員会議が12月17日開催され、農地法第4条に基づく転用事案36件25,624平方、及び第5条に基づく転用事案280件234,903平方について審議し、原案通りで了とすることが議決されました。

審議終了後は、農政政策の展開方向について及び地方分権改革推進委員会の中間取りまとめ並びに第20回農業委員統一選挙について情報提供を行ないました。

### 全国農業新聞重点普及拡大農業委員会担当者会議を開催

全国農業新聞・全国農業図書重点普及拡大農業委員会担当者会議を12月19日午後アイリス愛知で開催しました。

全国農業新聞及び全国農業図書の12月1日現在の普及推進結果を報告し、全国農業新聞の愛知版発行基準となります、3,500部を45部上回り平成20年度も愛知版を発行することが出来ることを報告し、感謝の気持ちを伝えました。皆様のご協力に感謝します。

会議では、後期普及推進についても、重ねて協力をお願いし、今回は農業者年金加入推進についても現状報告し一層の加入推進に向けての協力依頼を年金担当者から行いました。

### **担い手育成総合支援協議会幹事会及びアクションサポートチーム会議を開催**

愛知県担い手育成総合支援協議会は、12月20日白壁庁舎において幹事会及びアクションサポートチーム会議開催し、第3四半期までの事業推進状況について検証を行うとともに、今後の事業展開及び20年度の取り組みについて意見交換を行いました。

年度内には、経営管理能力向上研修会及び相談会を4回開催するほか、全県下を対象とした認定農業者交流会の開催を計画しております。

20年度の事業推進については、スペシャリストから「特定の集団や地域からの要望を組み入れたオーダーメイド型の研修会にしてはどうか。」との提言もあり、これまで県内10カ所で開催していた方式の再検討も必要という認識で企画を進めることになりました。

市町村あるいは地域担い手育成総合支援協議会や作目別の組織で、経営能力・労務管理などの研修を希望される方は、積極的に申し出ください。

### **第57回県農林畜産物品評会表彰式・第26回農業功労者表彰式が開催されました**

愛知県農業協同組合中央会等の主催による第57回愛知県農林畜産物品評会表彰式及び第26回熱田神宮農業功労者表彰が、12月21日熱田神宮会館で開催されました。

品評会には県内各地から2,248点の農産物・畜産物が出品され、特賞には豊田市の農事組合法人榎塚会と大治町の橋本銀輝氏が選ばれ、大豆を出品した榎塚会が農林水産大臣賞を受けられました。

また、碧南市の山田新一郎氏、吉良町の中嶋善右衛門氏、新城市の菊池勝昭氏が農業功労者表彰を受けられました。

山田新一郎氏は、昭和29年の就農以来にんじんなど露地野菜栽培に携わり、技術改良や新品種の導入を進めるほか、食育にも積極的に取り組まれ、昭和62年からは碧南市農業委員を務めておられます。

中嶋善右衛門氏は、昭和38年に就農しJA信託部会員として地域の水田農業の振興に努められ、「吉良吉田営農組合」の法人化や稲作の低コスト化に尽力され、平成6年度の農林水産祭天皇杯受賞に大きく貢献されました。

菊池勝昭氏は、昭和35年就農し、夏季冷涼な作手高原の特性を活かしたポットマム栽培の技術改良、新品種導入に取り組み、産地のブランド化に貢献されました。

### **経営管理能力向上研修を開催しています**

愛知県担い手育成総合支援協議会では、担い手育成アクションサポート事業の一環として、経営管理能力向上研修会を開催しています。

これまで、11月13日の田原市を皮切りに10カ所で開催しました。今後も、西尾市(1/15)、豊田市(1/16)、碧南市(1/22)、豊川市(1/24)で研修会及び経営相談会の開催を予定しています、認定農業者の皆さんの積極的な参加をお願いします。

また、1月25日(金)午後には農業総合試験場東三河農業研究所で開催される県茶園品評会表彰式のあと、スペシャリストの大平吉朗氏を講師に「後継者への上手な事業承継」と題して講演を予定しています。茶業関係者以外の方の参加も歓迎です。

## 第2回女性農業委員研修会を開催します

愛知県農業会議では、11月に女性農業委員研修会を実施しましたが、委員からの要望も多く、第2回の研修会を3月3日午後1時30分から名古屋市中区の名古屋能楽堂において開催すべく準備を進めています。

当日は、第1回の研修会において行ったアンケートで特に要望が多かった「女性農業委員としての活動事例報告」と「農地法等法令関係の基礎知識について」などについての研修を行う予定ですので、多数の女性農業委員の皆様のご参加をお待ちしています。

## 担い手アクションサポート事業地域活動推進支援研修会を開催します

平成19年度第2回総会については、3月27日午前中の開催を予定しておりますが、例年通り午後に、担い手アクションサポート事業の一環として地域活動推進支援研修会を開催します。

講師には、青森大学教授の見城美枝子さんに依頼しており、「世界の中の日本の農業（仮題）」について講演を頂く予定です。

見城教授は、TBSアナウンサーを経て、エッセイスト・ジャーナリストとして活躍しておられ、海外取材を含め50ヶ国以上を訪問され、国土審議会、生活環境審議会の委員の他「JA全農の経営役員を務められたこともあり、子育て、教育、女性と仕事、環境・水、農業など幅広く活躍しておられます。

多くの方のご参加をお待ちします。

## 結婚相談員研修会を開催します

愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会では、農業青年の結婚の円滑化に対処するために、会員相互の連絡協調、情報の交換を図りつつ、関係者の理解を深める活動を通じて農業後継者の育成確保に寄与しているところですが、会員及び関係者のそうした活動を支援するため、全国各地の結婚相談活動の状況と活動事例等を研修・情報交換する結婚相談員・事務局担当者等研修会を1月24日(木)午後1時15分から県西三河総合庁舎で開催します。農業の担い手育成のために、関係者のご参加をお待ちしています。

## 農地基本台帳及び農地地図情報システム活用検討会を開催します

農地基本台帳の電子化を始め、管理の適正化にはご尽力を頂いておりますが、愛知県農業会議では農業委員会事務研究会との共催で、農地基本台帳及び農地地図情報システム活用検討会を開催します。

2月13日午後1時30分から白壁庁舎においての開催を予定しておりますが、当日は、名古屋市、安城市、幸田町農業委員会から農地基本台帳や農地地図情報の電子化に向けた取り組みについて活用事例の報告をいただき、活用事例の研究と今後の展望等について意見交換したいと考えています。

今後、電子化を検討しておられる農業委員会、電子化は進んだが課題や問題点を抱えておられる農業委員会の方々に非常に参考になる検討会です。多数のご出席をお待ちしています。

### 愛知県農業会議のホームページをリニューアルしました

愛知県農業会議では、皆さんとの情報の受発信をより円滑に行うため、ホームページをリニューアルしました。

研修会などの開催計画や各種資料も、ご覧頂きやすくしました。また、皆さんのホームページともリンクして少しでもお役に立てるホームページにしたいと思えます。

URLは、<http://www.nougyoukaigi.or.jp/index.html> です。ご利用頂き、ご叱声下さい。

### 愛花協だより（知事お祝いメッセージ、会長色紙贈呈）

豊橋市 山中利仁さん・友視さん（12月2日挙式）  
ご結婚おめでとうございます。一層のご活躍とご多幸を祈ります。

### 今後の主な行事予定

- 1月15日 愛知県担い手育成総合支援協議会経営管理能力向上研修会（西尾市）
- 1月16日 常任会議員会議（白壁庁舎及び知多農林水産事務所管内）
- 1月16日 愛知県担い手育成総合支援協議会経営管理能力向上研修会（豊田市）
- 1月22日 愛知県担い手育成総合支援協議会経営管理能力向上研修会（碧南市）
- 1月23日 農と暮らしの研究発表大会（農業大学校）
- 1月24日 愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会結婚相談員研修会（岡崎市）
- 1月24日 愛知県担い手育成総合支援協議会経営管理能力向上研修会（豊川市）

### あとがき

皆さん清々しく新年を迎えられたことと存じます。

平成20年の干支は「戊子（つちのえ・ね）」です。ふえる・しげるの意味が二つ重なり、万事万物が繁栄し発展して行く良い年であると言われております。

現在の年号「平成」を考案したと言われる安岡正篤氏によると、「十干の第5番目『戊』という文字は、『茂』と道義で、樹木の盛んに繁茂する様を示し、物事すべて繁茂・繁栄する好時機である。また十二支の最初『子』については、『子は孳萌（ふえる）なり』と云われるように『ふえる（殖・増）』とい意味があり、天地の陽気がいろいろな物事に発現しようとする動きを意味している。」とのことです。

但し、樹木は茂り過ぎると、風通しや日当たりが悪くなって様々な障害が生じるため、思い切って茂った枝葉を剪定すべきというのが、「戈」に通ずる「戊」に含まれる深意で、いくら惜しくても思い切って剪定・摘果することが必要とされています。

今年は、昨年11月に農林水産省から公表された「農地政策の展開方向」について議論が進められる年です。

「戊」は「土の兄」。様々なことが大地にしっかり根を張って順調に進むことを祈念するものです。